

聖書箇所：ネヘミヤ記2章11~16節
「ネヘミヤの沈黙」

【1】 一人で向き合うこと

・ネヘミヤの祈り 「この人(アルタクセルクセス王)の前で、あわれみを受けさせてくださいますように」(ネヘミヤ1:11)に対する神の応答

- ① 王の視線・興味をネヘミヤへと
- ② 王の城壁再建への理解
- ③ 王による具体的な援助の獲得：手紙、軍の護衛

・ネヘミヤの現地調査

- ① 誰にも告げずに実施：神との対話のため
- ② 城壁再建にかかるコストの計算

「塔を建てようとするとき、まず座って、完成するのに十分な金があるかどうか、費用を計算しない人がいるでしょうか…まず座ってよく考えないでしょうか」(ルカ14:28-32)

▷ネヘミヤは城壁再建が神の導きの中にあり、必要な工事であることを確信していました。だからこそ、一人で神と対話する時間を確保し、それを完成させるために「まず座ってよく考え」たのでしょう。

【2】 同労者とヴィジョンを共有すること

- ① まず神の御手と神の導きを証
- ② 次に協力を要請 (ネヘミヤ2:17-18)

→同労者の一致した応答：「さあ、再建に取りかかろう」(ネヘミヤ2:18)

▷主の働きは同労者に共有されることを通して祈られ、練られ、協力者を得、そして前進して行くのです(参照使徒13:1-2)。

【3】 天の神を見上げること

・城壁再建の意味：「イスラエル人の益を求める者」(2:10)が明らかに
→エルサレム住民の信仰の回復への関与

・迫られた選択：誰の声に従うのか？

▷私たち信仰者も、与えられた使命について静かに時を待ち、神と対話し、座ってよく考え、同労者とヴィジョンを共有し、そして天の神が成してくださると告白しながら歩めますように。

